東崎山だより

令和2年6月　通刊１４９号

３５５－００４４　東松山市正代７５５－１　　電話・FAX 0493-34-6555

email：semyojuji@yahoo.co.jp　　HP：tosaki.web.fc2.com/index.htm　携帯 090-2446-5209

草花の命

花は、見る人、育てる人に癒しを与えてくれます。厳しい自然の中で耐えて花を咲かせる事に喩えて、仏前に供えられる花には忍辱（にんにく）【苦難に耐え忍ぶ】の意味があります。

さて、ここで皆さんが思い浮かべるのは見た目が美しい花ではないのではないかと思います。

境内にチラホラと雑草が芽を出し始めると、それを抜きながら、いつも思う事。それは、

「綺麗な花を咲かせれば、水や肥料を貰って大切にしてもらえるのに･･･」「雑草だって花が咲くのに･･･」「これって不公平だよな」など。

草むしりも終盤になる頃には、抜かれる雑草と自分の姿が重なってきて悲しい気持ちにもなったりします。

『山川草木悉有仏性（サンセンソウモクシツウブッショウ）』

この世に存在するもの全てに仏性があるという意味で、すべてのものに心を寄せて大切にしなさい、という教えですが、そうは言いながらも、人間の価値観で奪っていく命。

それでも気がつくと、知らぬ間に芽を伸ばし、やがては小さな花を咲かせる雑草。

皆さんにお聞きします。

「今まで何も不自由しない綺麗な花の様な人生でしたでしょうか？それとも耐えて小さな花を咲かせる雑草のような人生でしたでしょうか？」

その雑草の多くは、発芽する条件が厳しい時には休眠で乗り越え、好適な条件になっても一度には発芽しないそうです。

『一度には発芽しない』

なぜでしょうか？皆が同時に芽を出すと急激な気候の変化や動物とかに食べられたりして絶滅の危険があるので、必ず休眠を続け自分の出番を待つ種子があるからだそうです。

耐えるとは何の為かと言う事を知っているのでしょうか。芽を出す雑草は、だから強いのかな･･なんて思います。

時代の変化やブーム、様々な情報の氾濫、価値観の多種多様化が進んでいます。そして、全世界を席巻し、終息の見えない現在の新型コロナウイルス感染の拡大。

休眠するか芽を出すか、判断するのは自分。自分自身の耐える心が試される時代になったのではないかと雑草を抜きながら思う昨今です。

欲しがらない、怒らない、愚痴を言わない

仏教の教えの中に、懺悔文（さんげもん）という短いお経があります。たった２８文字ですが、人生を幸せに生きるヒントが盛り込まれています。

我昔所造所悪業（がしゃくしょぞうしょあくごう）　皆由無始貪瞋痴（かいゆうむしとんじんち）
従身口意之所生（じゅうしんくいししょしょう）　一切我今皆懺悔（いっさいがこんかいさんげ）

幸せな人生を送るためには、欲張らないこと、怒りを鎮めること、愚痴を言わないこと。そして、自分に起こった良いこと、悪いことを含めすべてのことを、ありのままに受け止め、行動、言葉、考えを前向きに生きていくことが大切、ということです。

この中に、「貪瞋痴（とんじんち）」と言う言葉がでてきますが、これを仏教では「三毒（さんどく）」といいます。

「貪」は、例えば人の物を欲しがったり、必要以上に手に入れようとすることです。

「瞋」は、例えば何かトラブルがあって頭に血が上ると、適切な判断が出来なくなるように、感情に任せて物事を進めてしまうことです。

「痴」は、例えば社会が悪い、行政が悪いなど、誰かへの不平不満を口にすることです。

仏教の教えでは、これらをやめようと言っています。無いことに目を向けるのではなく、今あるものに目を向け感謝すると「どうしてないのか」という不平も起こりません。

同じ物でも、「これだけある」と思えば人に分けてあげることができますが、「これしかない」と思えば、人に分け与えることができません。どちらの考え方が幸せを感じられるでしょうか。どう受け止めるか決めるのは、自分自身です。

懺悔文は、般若心経と同じくらいポピュラーなもので、ほとんどの宗派で読まれています。

仏教の理想は、みんなが幸せになること。周りの人が幸せになることは、自分も幸せになることです。

お知らせ

■第26回仏教講演会は中止となりました

東松山･滑川仏教会では、平成7年から例年「仏教講演会」を開催してまいりましたが、未だ新型コロナウイルス感染の終息が見えないことを鑑み、今年度の講演会を中止となりました。楽しみにしていた方には、大変申し訳ございません。

■護持会費等の納入　お済みでない方は宜しくお願い致します。

8000円＝護持会費(6000円)＋特別積立金(2000円)

■今月のことば　４月号から、『修証義（しゅしょうぎ）』連載しています

第３回　＜修証義の教えー第3章　受戒入位ー仏の子としての掟に従う章＞

三宝(仏･法ー教え･僧侶)に帰依し、みほとけの弟子としての道を行じなければなりません。

仏の子としての掟に従い、それを受け、守り、仏として目覚めさせてもらうのだ、と説き、それに対する確信が生まれれば、新しい真実の人生が開けてくる、と説きます。

■今月の行事等　「３密」に留意しながら再開いたします。マスクをご持参ください。

〇坐禅会･写経会　14日、28日

〇寺子屋　6日、13日、20日、27日